

チャレンジプログラムインタビュー

チャレンジプログラムとは！

学生が高いハードルに、相応の覚悟を持って挑むプログラムです！

▶「起業トライアルプログラム」

3年次の5月から1月の9か月間、自ら企画した事業を自分で責任をもち継続的に実施します。

▶「リアル就職プログラム」

3年次の9月から1月の5か月間、受け入れ先企業における週3～4日フルタイムインターンシップに挑戦します。

「起業トライアルプログラム」 SHIBAR 地域創生学群 4年 芝美咲さん

・仕事内容

B A Rの経営を金土日曜日の週3勤務で、13時から21時の8時間営業していました。

・チャレンジプログラムを行なったきっかけ

入学前に聞いたチャレンジプログラムの体験談に感銘を受けたのがきっかけでした。自分も先輩たちみたいにかっこよくなりたい、地創で一番になりたいという強い思いを持ちました。

・チャレンジプログラムを行って、大変だったこと

まずは何もない環境で始めることです。起業計画のアイデアやお金をどうするかが大変でした。次は利益をどうやって上げるかです。起業ということで利益をどう生み、どう上げるかが大変でした。



・チャレンジプログラムを終えて、学んだこと

1人でできることには限界があることです。1人ではどうしてもできないことがあり、友達に営業を手伝ってもらったり地域の方にも見守って頂いたり、みんなでやっていたんだなと思いました。また、アルバイトでは見えない部分の営業や稼ぐことの大変さ、仕組みを学べたと思います。



「リアル就職プログラム」北九州エアターミナル株式会社 地域創生学群 4年 塩田真子さん

・仕事内容

管理課・事業課・総務課を1か月半ごとに回り、それぞれの課の仕事と同時進行で電話対応をしていました。月火水曜日の週3勤務で、イベントがあれば土日にも出勤しました。

・チャレンジプログラムを行ったきっかけ

入学前教育の際にチャレンジプログラムに参加した先輩の話聞き、先輩と自分に大きな差があったことを知り、大変驚いたことがきっかけでした。また、学年が上がるにつれ社会人の方と関わる機会が多くなり、チャレンジプログラムに参加したいという思いがますます強くなっていきました。

・チャレンジプログラムを行って、大変だったこと

インターンの受け入れ先がなかなか決まらなかったことです。第一希望が学内選考で落ちてしまい、他の人はインターン先が決まっている中どこにインターンに行くか、なかなか決まらなかったことが大変でした。



・チャレンジプログラムを終えて、学んだこと

自覚や責任を持たなければならないことです。間違ったことをお客様に教えてしまうと会社の信用を失いかねないので、話し方や言葉に気を付けなければならないということを学びました。また、ゼミや実習活動とは違う中で、自分らしさをどのようにして出していくかが難しく、学びとなりました。

